

# 小松市公園緑地維持管理標準仕様書

## 第 1 章 総 則

### 第 1 節 一般事項

#### (1) 業務名称

石川県立航空プラザ芝生・屋外樹木管理業務

#### (2) 対象区域

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 1) 位 置    | 小松市 安宅新町 地内             |
| 2) 芝生管理面積 | 3, 5 0 0 m <sup>2</sup> |
| 3) 樹木管理本数 | 3, 3 5 0 本              |
| 4) 芝生管理区域 | 別添図参照                   |
| 5) 樹木管理区域 | 別添図参照                   |

#### (3) 目的

維持管理の目的は基本的には次の 3 つに要約できる。すなわち、管理の対象とする土地・施設の

- 1) 機能性を維持又は増進すること。
- 2) 安全性を維持又は増進すること。
- 3) 管理性(管理のしやすさ)を機能と安全を害さない範囲で維持又は増進すること。

#### (4) 適用範囲

- 1) 本仕様書は、石川県立航空プラザ 芝生・屋外樹木の管理に於ける受託作業に適用する。
- 2) 委託作業は、それぞれの種別に応じ、本仕様書に定める仕様に従い施工する。
- 3) 本仕様書に定めのない事項については、係員の指示を受けるものとする。

#### (5) 費用負担

材料、作業の検査及び官公署等への届出手続きに必要な費用は、受託者の負担とする。

#### (6) 法令等の遵守及び手続きの代行

- 1) 作業施工にあたっては関係する法令、条例及び規則等を遵守し、作業の円滑な進捗を図ること。又官公署等への必要な届出手続き等はすみやかに処理しなければな

らない。

2) 作業施工に関して関係官公署、付近住民、利用者と交渉を要するとき、又交渉を受けたときは、すみやかに係員と協議し、その決定に従い実施する。

(7) 軽微な変更

現地の状況などにより、作業位置あるいは方法を多少変更するなど軽微な変更は係員と協議のうえ施工する。

(8) 関係書類の提出

受託者は委託者が定める委託契約書に基づき、係員が指示する期日までに関係書類を提出し承認を受ける。

(9) 疑義の解釈

この仕様書に定める事項について疑義を生じた場合の解釈及び本作業の細目については係員の指示に従う。

(10) 管理業務委託方針

受託者は係員と緊密な連絡をとり、十分な打合せを行い、業務を遂行させること。

## 第2節 着 手

(1) 作業の着手

作業の着手は、契約締結後5日以内に行う。ただし、作業内容により時期が指定されている場合は係員の指示に従う。

(2) 着手届の提出

受託者は、作業の着手に先立ち、作業工程表を添付した着手届を提出する。

## 第3節 委託作業の適正化

(1) 施工管理

1) 受託者は作業工程表により適正な業務管理を行うものとする。

2) 現行の作業工程表に変更が生じ、その内容が重要な場合には、その都度変更した作業工程表を提出して承認を受ける。

(2) 施工についての事前協議

特に施工時期が定められたもの及び施工時期を逸すると効果の期待できない作業については、係員と事前に協議し、作業の進行を図る。

(3) 材料一般

作業用材料は、すべて係員の検査を受け、合格したもののみ使用し、検査に不合格のものは、ただちに搬出する。

(4) 支給材料

- 1) 受託者は、支給材料を受けるときは「支給材料請求書」の提出、その他所定の手続きをとる。
- 2) 受託者は、支給材料を支給場所から現場に運搬し、適正な管理のもとに保管する。

(5) 発生材料

- 1) 発生材料は、数量を確認し発生材料報告書に記入して所定の手続きをとる。
- 2) 発生材料の運搬処理については、処理方法が指定されているものを除き、係員の指示に従う。

(6) 作業用機械器具等

作業用の機械器具、道具類は、各作業に適するものを使用する。

(7) 現場の安全管理

- 1) 作業の施工にあたっては、来園者等の危険のないよう十分注意して行う。
- 2) 作業の施工にあたり、施設、樹木等を損傷しないよう十分注意して施工する。万一損傷した場合は受託者の負担で原形に復する。
- 3) 受託者は、人身事故、災害又は第三者に損害を与える事故等が発生した場合は、応急措置を講ずるとともに事故発生の原因、経過及び事故による被害の内容等について遅延なく係員に報告する。
- 4) 作業の施工にあたっては、利用者の安全を第一とし、作業員については、労働基準法及び労働安全衛生法に基づき実施すること。

(8) 実施記録写真

受託者は係員より実施記録写真の撮影を指示された時は、各作業ごとに施工状況写真を撮影、整理し、係員の確認を受ける。なお、写真は必要に応じカラー写真とし、作業の実施前、実施中、実施後の状態をそれぞれ同じ位置、同じ方向から撮影するものとする。

(9) 作業の確認

受託者は、作業の確認を要する時点に於いて、作業実施確認願を提出し、係員の確認を受ける。

#### 第4節 完 了

##### (1) 跡片付け

受託者は作業完了に先立ち、すみやかに不良材料を整理処分する。

##### (2) 作業の完了

受託者は作業の完了後すみやかに書類を点検整備し、所定の手続きをとるものとする。

## 第1節 一般事項

### (1) 植物への配慮

作業にあたっては、対象植物の特性、活力及び環境条件などを勘案し、生き物としての植物に対する細心の注意と愛情をもって作業を行い、その目的を達するよう努める。

### (2) 施工時期

各作業は天候、育成状態を考慮し、最大の効果が期待できるよう、係員と協議のうえ進める。

### (3) 材料の管理

搬入した材料は、損傷、枯損することのないよう適切なる措置を講ずる。

## 第2節 芝生地管理

### (1) 刈込み

- 1) 刈込みは、芝生地内にある樹木、株物、施設等を損傷しないように注意し、刈りむら、刈り残しのないよう均一に刈込む。
- 2) 刈込み高は係員と協議する。又、モアアの刃は良くラッピングを行い、セットも正しく、刈り跡に筋が生じないようにすること。
- 3) 刈込みの方向は常に変え、肥料散布直後の刈込みは行わない。
- 4) 刈りとった芝は、指定箇所に集積し、まとめて処理するとともに、刈跡はきれいに清掃する。
- 5) 縁切りは係員と協議のうえ、対象灌木、施設等にほふく茎が侵入しないよう、灌木類にあつては樹幹より10m内外の幅で垂直に切り込む。
- 6) 刈込みは5月から10月にかけて設計書で定めた回数を行うものとする。ただし、別に定めのある場合はそれに従う。

### (2) 施肥

- 1) 所定の施肥量を芝生面にむらのないよう均一に散布する。散布は原則として手撒きとし、各回とも縦横2回に分けて散布し、1回の施肥量の5%程度を残し、1週間後にむらなおしの肥料として使用し、均一な施肥とすること。
- 2) 施肥は降雨直後又は朝露で芝面が濡れている時は行わないこと。
- 3) 施肥の年間回数は1回程度とする。ただし、別に定めるときはそれに従う。

### (3) 除草雑物除去

- 1) 芝生をいためないよう、除草ホークなどを用いて根より丁寧に抜き取る。
- 2) 抜き取った除草は、毎日指定箇所に集積し、まとめて処理するとともに、除草跡はきれいに清掃する。
- 3) 各刈込みの前に、小石、塵等を拾い、機械の破損を防止する。
- 4) 芝刈機に於いて刈込みの出来なかった部分を人手で刈ること。
- 5) 手取除草の時期は係員と協議のうえ行うものとする。

#### (4) 除草剤散布

- 1) 希釈液は指定の濃度となるよう正確に希釈混合し、指定量をむらなく均一に散布する。
- 2) 散布日は、風、日照、降雨等の天候条件を考慮し実施する。
- 3) 芝生地内の灌木、草花、来園者及び隣地等にかからないよう十分注意して行う。

#### (5) 病虫害防除

- 1) 2. 2. 4 除草剤散布に準じて行う。
- 2) 殺虫剤散布時期については係員と協議するものとする。

#### (6) 目土かけ

- 1) 土は植物の根、ガレキ、赤土等がなく2cm程度目のふるいにより、ふるい分けた目土用土を用いる。土壌改良剤及び肥料を混合する場合は、指定の混合率となるよう入念に混合する。
- 2) 目土用土は指定の厚さにとんぼ等を用いて、むらなく均一に十分すり込む。なお、芝生面に不陸がある場合は、不陸調整を勘案しながら行う。又、この時期出る土のかたまりや小石は除去する。
- 3) 目土は場内の通路まで車両で搬入し、芝生内は小車運搬とする。

#### (7) 補植

- 1) 補修箇所を大きめに形を整えて切り取り、深さ15cm程度まで床土を交換したうえ沈下防止のためよく転圧する。
- 2) 張芝にあたっては、周縁同じ高さになるよう調整し転圧、目土を施しよく灌水する。

## 第1節 一般事項

### (1) 植物への配慮

作業にあたっては、対象植物の特性、活力及び環境条件などを勘案し、生き物としての植物に対する細心の注意と愛情をもって作業を行い、その目的を達するよう努める。

### (2) 施工時期

各作業は天候、育成状態を考慮し、最大の効果が期待できるよう、係員と協議のうえ進める。

### (3) 材料の管理

搬入した材料は、損傷、枯損することのないよう適切なる措置を講ずる。

## 第2節 植込地管理

### (1) 低木の手入れ

樹木の適性に応じて切り詰め、中すかし、枯枝の除去等を行う。

### (2) 花木の手入れ

花木類は花芽の分化時期と着生位置に注意して手入れを行うこと。

### (3) 施肥

1) 定められた施肥量を肥料、施肥の種類（寒肥、追肥等）及び各樹木の特性に応じて最も効果が期待できるよう施肥方法について係員と協議する。

#### 2) 高木施肥

##### イ 輪肥（わごえ）

樹木主幹を中心に張り外周線の地上投影部分に深さ20cm内外の溝を輪状に掘り、溝底に所定の肥料を平均に敷き込み覆土する。溝掘りの際、特に支根をいためぬよう注意し、細根が密生している場合は、その外側に溝を掘る。

##### ロ 車肥（くるまごえ）

樹木主幹から車輪の軸のように放射状に遠ざかるにつれて幅を広く且つ深く溝を掘り（原則として4ヶ所）溝底に所定の肥料を敷き込み覆土する。溝の深さは20cm内外、長さは張りの1/3内外とし、溝の中心部分が張り外周線下にくるように掘る。

##### ハ 壺肥

樹木主幹を中心に、葉張り外周線の地上投影部分に放射状に立て穴を掘り（標準6ヶ所）底に所定の肥料を入れ覆土する。立て穴の深さは20cm内外と

する。

### 3) 低木施肥

イ 1 本立ち及び小規模な寄植えの場合，輪肥，壺肥を主体とし，その方法は高木施肥に準ずる。但し立て穴の深さは20 cm 内外とする。

ロ 群植，大規模な寄植えの場合

有機質肥料については，1 m<sup>2</sup>当り3ヶ所の立て穴を掘り，底に所定の肥料を入れ覆土する。化成肥料については，植え込み内に均一に散布する。

### (4) 除草

1) 既存植物をいためないよう除草ホークなどを用いて取り除くこと。

2) 抜き取った雑草は，毎日指定箇所に集積し，まとめて処理するとともに，除草跡はきれいに清掃する。

### (5) 除草剤散布

1) 希釈液は指定の濃度となるよう正確に希釈混合し，指定量をむらなく均一に散布する。

2) 散布日は，風，日照，降雨等の天候条件を考慮し実施する。

3) 芝生地内の灌木，草花，来園者及び隣地等にかからないよう十分注意して行う。

### (6) 病虫害防除

#### 1) 剪定防除

アメリカシロシトリ，チャケムシ等の幼令期に枝葉に集団で生活している場合，この部分の枝葉を幼虫を落下させないように注意深く切取り，係員の指定する場所に集めすみやかに焼却処分する。

#### 2) 薬剤散布

イ 薬剤の使用に際しては，農薬取締法の農薬関連法規及びメーカー等で定めている使用安全基準，使用方法を遵守する。

ロ 散布量は指定の濃度に正確に希釈混合したものを枝葉面に細かい水滴がつく程度にむらなく均一に散布する。

ハ 散布に際しては，風下より，背を向けて風上に歩くように散布する。又来園者をはじめ周囲の対象物以外のものにかからないよう十分注意して行う。

ニ 散布方法は，それぞれの病虫害の特性に応じて最も効果的な方法で行う。

### (7) 樹木灌水

#### 1) 葉面灌水



葉面上の粉塵などを洗い落とすよう前後表裏方向をかえて水を吹きつける。

2) 地表灌水

根元の周囲に、根元直径の4倍程度を直径とし、深さ15cm内外の水鉢を作り、指定量の水を灌水する。

3) 地中灌水

根元周囲に灌水用の立穴がある場合には、立穴より灌水を行う。水は指定量を立穴に数回に分けて灌水する。

(8) 結束直し

在来の杉皮、棕呂縄、亜鉛引鉄線は樹木を損傷しないよう丁寧に取り除き、新しい材料をもって樹幹に緊密に固着するよう杉皮を巻き、棕呂縄で結束する。

(9) 枯損木処理

- 1) 損木の伐採にあたっては、周辺樹木、施設物、特に人止め柵等を損傷しないよう注意深く行う。又周囲の芝生等は必要に応じてシートを覆せるなど保護処理を行う。
- 2) 切り株は、出来るだけ地際より処理すること。
- 3) 伐採した樹木は枝払いし、一定の長さに切断した後、指定箇所に処理するとともに、周囲はきれいに清掃する。

(10) 雪吊り（はずし共）

- 1) 柱材は、耐用年数を3年とし、毎年必要量の1/3を新品とする。
- 2) 雪吊り方法は定められた方法を原則とするが、その方法が不適当な樹木に対しては係員と協議するものとする。
- 3) 雪吊りをはずした支柱材は係員の指定する場所に片付けるものとする。
- 4) 雪吊りは美観効果もあるのでその点を十分理解し施工するものとする。